

州警察は保護者に、子どもたちがインターネットを通じて狙われていることに注意し、被害を防止するよう求めている。

州警察の防犯課捜査官の Mark Allen は、「オントリオ州が、世界中の多くの国が参加している”インターネット安全の日”に参加することで、保護者たちが、子どもたちの安全なインターネット利用について重要な役割を果たさなくてはならないことを思い起こすことを願っている。」
「カナダでは、94%の子どもたちが家庭内で日常的にインターネットを使っている。子どもたちの利用の仕方は、宿題のための調査、ゲーム、メッセージのやり取りなど様々である。警察、保護者、そしてコミュニティーは力を合わせて、特に若い人々の間でのインターネットの安全な利用に関する認識を広め、また深めなければならない。」と語っている。

インターネットは、知識を増やす機会をもたらしている一方で、いじめや脅しを含む、子どもたちに対する虐待の機会も作っている。保護者は、子どもたちが日ごろどんなサイトにアクセスしているか、インターネットをどのように利用しているかに気を配らねばならない。米国の調査によるとインターネットを使っている子どもたちの66%は、オンラインのポルノサイトに誤って曝された(映しだされた)ことがあると言う。

安全な利用に関する約束を提案しているサイト(www.internet101.ca)など、多くのウェブサイトがインターネットの安全利用に関する情報

を提供している。保護者は、そういったサイトを閲覧し、インターネットの安全利用に関し知識を持って欲しい。

また保護者は、インターネット利用に伴う危険につき、子どもたちと話し合い、危険な状況が起きたらどう対処するべきかを教えておくべきである。以下は、子どもたちを守る方法の幾つかである。

<<

- 子どもたちの、日ごろのインターネット利用につき知っておくと共に、一緒に利用することを心がける。
- コンピューターは家の中の、オープンな場所に設置する。
- 子どもたちに、パスワードを人に漏らさぬよう、また友達と同一のパスワードを使わないよう言い聞かせよう。
- ウェブカメラには特に注意をしよう。カメラを使っていないときには電源を切断し、
- カメラの電源を入れるのは、誰と話しているかを言うからにさせよう。
- オンラインで公表する内容には、十分注意させよう。
- オンラインの友達についても、普通の友達と同じように知るようになせよう。

>>

Allen は、「知らないことを防ぐことは出来ない。保護者は、オンラインの世界で学び、遊んでいる子どもたちを守るには、子どもたちがどんな危険に曝されているのかを知ることが必要だ。」と語っている。また州警察の防犯課には、保護者、ないしは子どもたち向けに作られた、インターネットの安全利用に関するヒントを書いた幾種類もの案内書が用意されている。このほか、州警察のウェブサイトにも情報が掲載されている。

更に詳しい情報が欲しい人は、防犯課少年関連事項調整担当 Robyn MacEachern 警部(電話(705) 329-6299)に連絡されたい。

全利用に関する啓蒙なども行っているのので、参考にされたい。

JSS 説明

2月10日は、6回目の **Safer Internet Day (SID)**であった。この、主として子どもたちをインターネットの危険から守ろうとする運動は EU の協賛を得てヨーロッパで始まり、去年は 56ヶ国、120の団体が参加しており、本年も更に多くの国や団体が参加したと言う。

子どもたちの間でインターネット利用は、大人の想像をはるかに超える規模と内容で行われており、いまや生活には欠かせないものとなっている。一方、そういった事態が多く、犯罪や不都合なものを内包していることは認めざるを得ない現実であると共に、その魔手から子どもたちを守ることは大人の責任でもある。運動に賛同する国、団体が増えていることは喜ぶべきであり、一方無関心な人々が少なくないことも事実のようだ。

当地でも、インターネットを通じたかどわかし、性的暴行ないしは虐待、いじめなどが頻繁に報道されている。全てが、親の無関心によって引き起こされているとはいえないが、訳出した州警察の新聞向け発表や、そのほかの警察の発表の内容もその懸念を裏書している。

日本では **Internet Hot Line** という団体が、世界の同様の動きに参加して、ホットラインサービスをを行っている (www.internethotline.jp) と共に、**Safer Internet Day** の解説、インターネットの安